

『人とのふれあい』を大切にした第6学年「旅の学習」

—グループ別探検を中心に—

今 村 昌 禎

1 はじめに

(1) 6年生の子どもたちの実態

6年生の子どもたちは、これまでの3回の宿泊学習を通して、積極的に自然とのかかわりを楽しもうという姿勢が身についてきている。もちろん自然だけでなく、いろいろな人とのかかわる機会も多かった訳だが、学校関係者以外の人とのかかわることに対して消極的だったり、個々の意見のくいちがいから衝突したりという姿も見られた。

(2) 「旅の学習」でどんなふれあいを

6年生の子どもたちの実態から「旅の学習」では、仲間やいろいろな人とのふれあいを通して、次の点を大切にしていこうことにした。

気づく→築く(創る)⇒自分を見つめる	
★人とのかかわりのよさ・難しさを味わう	自分を見つめ高める
★仲間のよさや違いを認め合う	
★まわりの人の心遣いに気づく	

そのために…

- ★仲間と協力しながら生活して仲間のよさ・違いを認め合う「グループ行動」
- ★仲間とのかかわりを大切にしながら長崎市を味わう「グループ別探検」
- ★命の大切さを見つめる「長崎平和学習・原爆資料館見学」
- ★広島とは違う自然・文化を味わう「ペーロン船体験・ガタリンピック」
- ★本校の下級生とのかかわり「おみやげ話」

といったふれあいの場・機会を設けることにした。

2 旅の学習の概要

(1) 目 的 (子ども向け)

- ① 見つめよう自分を＝長崎の人・自然・文化に積極的にふれ、自分の見方や考え方を広めたり深めたりしよう。
- ② 深め合おう仲間と＝共同生活を送るなかで、友だちのよさ・ちがいを認め合おう。
『寝食を共にする』
- ③ 気づこうかかわりを＝社会の一員として気配り・心づかいを大切にしよう。

(2) 期 日 2002(平成14)年6月19日(水)～21日(金) 2泊3日

(3) 場 所 長 崎

- ①『生 命』＝長崎平和学習・原爆資料館
- ②『自 然』＝ペーロン船体験・ガタリンピック
- ③『人・文化』＝グループ別探検

3 グループ別探検「長崎を味わう210分」の概要

(1) ねらい

- ① 長崎の人や文化に積極的にかかわり、そのことをもとに自分を見つめよう。
- ② グループ全員が長崎の味わい方にこだわり、互いが納得するコースの計画を立てよう。

- ③ 社会の一員としての心づかいをしながら、計画どおり最後までグループ全員で協力して活動しよう。

(2) 企画書&グループづくり (5時間)

① オリエンテーション

次の4点を押さえながら、「グループ別探検」の概要を理解するようにした。

1. グループ別探検のねらいの確認とイメージ化	3. 自分のめあてづくり
2. 全員が楽しむためのルールの確認	4. サンプルコースの紹介

② 各自で情報収集し、自分のオリジナルコースづくり

- ◆子どもたちに「長崎班別行動」(日本移動教室協会)を配布した。
- ◆コンピュータールームにおいて、2時間インターネットで調べる場を設けた。

③ ②の85人のオリジナルコースに基づいてグループづくり

次の4点に基づきながら、一人一人のこだわりとグループの協力が大切にされるグループを子どもたちと一緒につくっていった。

「長崎を味わうための仲間を、場所を決めていこう！」

<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の考えたコースと同じか、最も近いコースを選ぼう。 2. 安全を考えて、単独での行動はやめよう。 3. 自分の行きたい所のこだわりを大切にして、同じようなコースをつくっている友だちとグループをつくろう。 4. 同じコースの友だちが多い場合、いくつかの班に分かれましょう。(必ず全員が納得するように、しっかりと話をする) <p style="text-align: center;">85人全員が納得して19以内のグループに分かれよう</p>

④ グループごとに企画書づくり

次のような点を大切にしながら、各グループごとに企画書をつくった。

<ol style="list-style-type: none"> 1. 班の全員が納得するコースを考えていこう。ーよさ、違いを認め合うー 2. 時間に余裕をもった計画を立てよう。 ◆13:00平和公園出発→16:30ホテル到着 ◆活動費1,000円以内 3. 決まったコースについては、班員全員がそれを守ろう。 4. 班行動に自分たちで意味づけしよう。 5. 困ったことがあったら、すぐに先生に連絡しよう。

(3) グループ別探検 ー当日の安全管理ー (5時間)

子どもたちの探検中の安全と自立をめざして、次の点を大切にしていた。

子 ども	教 官
<ul style="list-style-type: none"> ◆各グループごとに腕時計とPHS(受信専用)を持つようにし、緊急な場合に連絡がとれるようにした。 ◆教官の所在場所と緊急の場合の電話番号を記したプリントを配布・説明し、常時携帯するようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教官は携帯電話を持ち、教官同士並びに各グループへ定期的に連絡をとった。 ◆教官は、子どもたちのコースに基づき、5カ所に立ち、子どもたちの所在の確認と行動を見守るようにした。 ◆地元の警察署生活安全課少年係に活動の主旨などを事前に説明し、緊急な場合の対応を依頼した。

(4) 探検での子どもたちの様子 —どんなふれあいを味わったのか—

グループ別探検での子どもたちの様子をすべて見ることはできなかったのですが、旅の学習後に書いた作文から子どもたちの様子や思いを探る。

初めての土地で行動するので、出会う人とのふれあいをいつも以上に感じていた。から親切にしてもらえらるることの素晴らしさを実感していた。人に対して感謝の思いを抱いていた。同年代の人ではない見知らぬ大人とのふれあいを楽しんでいた。
なかなか計画どおりにいかなかったが、グループのみんなで知恵を出し合ったり、長崎市の人に聞いたりしながら解決していった。途中で出会う教師には安心していましたが、質問はしてこなかった。自分たちの力でやりきろうという思いが強かった。
広島と長崎を比べたり、今まで行った土地と比べたりしながら探検をしていた。今まで経験していないことを新鮮に感じていた。そこから、自分の身のまわりの世界を見つめ直すきっかけになったように思う。210分では満足できていないようである。
グループ別探検で体験したことを同じグループの人や違う人とも、話の花を咲かせていた。自分たちがこだわって計画した体験であり、自分たちだけで味わった体験であり、偶然の出会いがもたらした体験であるからではないか。
自分たちで情報を収集し立てたこだわりのプラン、そのプランに基づいて子どもたちだけで試行錯誤しながら、不安を感じながら行動し達成感を味わっていた。小さな出会い、喜び、失敗などが大切な宝物になっていると思う。

4 考察 —ふれあいがどんな力・楽しさに—

生き生きとした表情、素敵な笑顔を見ることができた「グループ別探検」が物語っているように、子どもたちの学習へのこだわりがどれだけ熱いものか、自分たちだけで試行錯誤しながらどう学習（追究）していくのが重要な鍵である。

そこから得られる特別な雰囲気・緊張感が、一つ一つのふれあいを意味あるもの（=力）にかえていったように思われる。

初めての土地でドキドキしながら、今までの知識をみんなで引っ張り出したり、つなぎ合わせたりして行動する。	→ 今までの経験を生かす力 → 知識から知恵に！ → 協力の楽しさ・大切さ
それでも無理な場合、まわりの人に素直に援助を頼む。同年代の人ではない見知らぬ大人とのふれあいを楽しんでいた。	→ 素直に援助を頼む力 → 人に感謝する心 → 異年齢の人とかかわる力・楽しさ
計画どおりいかなかったが、みんなで知恵を出し合い、次の行動を考える。	→ 失敗を素直に認める力 → 軌道修正する力
広島・今まで行った土地と長崎を比べながら違いやよさを見つめていた。今まで経験していないことを新鮮に感じていた。	→ 違いやよさを認める力→自分を見つめ直す力 → 比べる力
体験したことを同じグループの人や違う人とも、話の花を咲かせていた。	→ 同じ思いを分かち合う力・楽しさ

5 おわりに

考察に書いたようなふれあいから得た力・楽しさは大きいように思われる。だからこそ、学校生活の中に同じようなふれあいの場を意識してどのように設けるのか、得た力・楽しさを学校生活の中にどのように結びつけていくのかが、大きな課題である。宿泊学習が宿泊学習だけで終わることは、意味を失ってしまう。普段の生活にどう生かしていくのか、自分を見つめ高めようとする姿勢を大切にしていきたい。